E 18　　4世代家族の世代間関係－静岡県志太郡岡部町調査より－

常葉学園大　　○松島宏子
大和学園女子大　　山根紀子

目的：昭和57年に同地域で行なわれた大量調査により、とくに 4世代家族における世代間の情緒関係の統合度が高いことが明らかにされた。そこで本研究では、4世代家族における家庭内の権威・勢力構造、役割分担、生活分離度などの諸要因と世代間関係との分析、考察を行なう。

方法：調査時期……昭和60年８月７～９日　　調査方法…訪問面接聴取法を用い事例調査を実施

調査対象者…静岡県志太郡岡部町の４世代家族を構成する、母と嫁17組計34人

結果：①生活設備、経済、食事が同一の完全同居形態であるが、意識の上では祖父母、父母、夫嫁子という３つの核が存在する。②家族員は４世代での同居生活を肯定、享受しているが、世代間の緊張は常に内在している。③祖母(G_1)－母(G_2)－嫁(G_3)という連続的な世代間関係よりも、姑(G_1)－嫁(G_2)と姑(G_2)－嫁(G_3)という２つのサブ・ユニットが存在し、母(G_2)が、祖父母(G_1)と夫嫁(G_3)の世代間の調整役を果たし、緊張を緩和している。④祖父母(G_1)の身体的・精神的世話役は、父母(G_2)にある。 ⑤世代間で意見のくい違いがみられるのは、主に、子供のしつけ、献立、農業経営である。⑥生活全般にわたる分離志向は、G_2よりもG_3に強く、とくに経済の分離希望が多い。また、現在の分離志向レベルは、老後の子供との同別居形態希望と深い関連がある。⑦子供のことが全世代の共通の関心、話題となり、同居の楽しさにつながっている。⑧世代間の連続性を維持し、強調していくために、母(G_2)、嫁(G_3)共に会話の重要性を強調している。